

令和4年度 一宮市老人クラブ
連合会理事・女性代表合同研修会



と き 令和4年12月16日 (金)

ところ 国宝・明通寺参拝と

人道の港ムゼウム研修 小浜日帰り

令和4年度一宮市老連理事・女性代表合同研修会行程表

実施日 令和4年12月16日(金)

行き先 国宝・明通寺参拝と人道の港ムゼウム研修 小浜日帰りの旅

行程

集合時間 7:50	尾張一宮駅前ビル南側 ふるさとパーク駐車場前	発	8:00
	一宮西IC=名神・北陸道		↓
	養老SA	着	8:30
		発	8:45
			↓
	三方五湖PA	着	10:00
		発	10:15
	小浜IC		↓
	明通寺(国宝のお寺参拝)	着	10:45
		発	11:15
			↓
	ホテルせくみ屋(昼食)	着	11:30
		発	13:30
			↓
	若狭フィッシャーマンズワーフ(休憩)	着	13:45
		発	14:00
	小浜IC=舞鶴道=若狭美浜IC		↓
	人道の港ムゼウム(見学・研修)	着	14:50
		発	15:30
			↓
	日本海さかな街(買物)	着	15:45
		発	16:15
	敦賀IC=北陸道・名神		↓
	養老SA	着	17:15
		発	17:30
	一宮西IC		↓
	一宮市	着	18:00

※行程は天候・交通事情により変更する場合があります。
 ※旅行当日、健康保険証・常備薬等をご持参ください。

参 加 者 名 簿

	連 区	市老連役職名	連区老連役職名	氏 名
1	宮西	理 事	会 長	野村 悦治
2	宮西		女性代表	柴田 京子
3	貴船	副会長	会 長	角田 彰吾
4	貴船		女性代表	青木 美知子
5	神山	副会長	会 長	杉山 勝治
6	神山		女性代表	長谷川貴代子
7	大志	理 事	会 長	野田 清一
8	大志	理 事	女性代表	鶴飼 紀子
9	向山	理 事	会 長	服部 安紀
10	向山	理 事	女性代表	斎藤 美佐子
11	葉栗	理 事	会 長	浅野 由久
12	葉栗		女性代表	春日井 尚美
13	西成	理 事	会 長	石井 佳治
14	丹陽	理 事	会 長	松尾 稔
15	浅井	理 事	会 長	野田 幸次
16	浅井	理 事	女性代表	岸田 淑子
17	北方	監 事	会 長	木村 武博
18	北方		女性代表	牧野 すゞ子
19	大和	副会長	会 長	服部 日出男
20	大和		女性代表	玉田 育子
21	奥	理 事	会 長	児玉 博久
22	萩原	理 事	会 長	森 光太郎
23	萩原		女性代表	伊藤 啓子
24	千秋	会 長	会 長	平子 昌三
25	三条	理 事	女性代表	藤森 史子
26	大徳	理 事	会 長	浅野 進
27	大徳	副会長	女性代表	浅野 智子
28	朝日	理 事	会 長	岩田 祐成
29		事務局		中村 英樹

わたしたちの誓い

わたしたち女性委員会は、「ゆとり」と「うるおい」と「やすらぎ」に満ちた心豊かな社会を築くために、21世紀のさわやかな風になって、男女共同参画の老人クラブをすすめます。

〈誓い：21世紀のさわやかな風になる〉

私たちは

- 地域に仲間づくりを広げる風になる
- 高齢者の声を届ける風になる
- 次世代との心をつなぐ さわやかな風になることを誓います。

★全国老人クラブ連合会 「三本の基本方針」 健康. 友愛. 奉仕.

孤立につながる閉じこもり……「こんにちは」……から始めませんか。

— 愛のひと声運動 —

「目と耳と心を傾けて」……まず笑顔で

— 傾聴奉仕運動 —

会話による触れ合いは、なによりも楽しいものです。

人は話を聴いてもらうことで、気持ちが落ち着き、整理され、さらには生きる意欲まで湧いてきます。

高齢者同士、身近な隣人、友人として、心のふれあいを中心とする友愛活動に取り組んでいます。

全国老人クラブ連合会……健康、友愛、奉仕 三大運動

……ひとりよりも、二人 ふたりよりも、三人 仲間がいるほど楽し……

対等の友人として「かわいそう」「気の毒」という同情の気持ちは、ことば使いや態度に表れるものです。

「してあげる」ではなく、共に生きる仲間として「支え合う」それが老人クラブの友愛活動です。

傾聴を通して、よき「話し相手」になりましょう

傾聴とは

耳を傾けて、相手の話すことに一所懸命「ああ、そうか」といつて聴くことが傾聴です。「聴」という漢字は「耳」に「目」、そして「心」からできています。この3つをひとつにして聴くことが「聴」です。

傾聴が相手にもたらす3つの大きな働きがあります。

1. 人は、自分のことを一所懸命に聴いてもらうことで、気持ちが落ち着きます。
2. 聴いてもらうことで、考えが整います。話すために内容の順序が整うからです。
3. 生きる力が湧いてきます。悲観的だった人が、楽観的、あるいは肯定的、プラス思考になります。

聴くことの重要性

人は心から自分のことを聴いてくれる人を必要としています。聴くということは非常に大事なことです。

こちらが積極的にしゃべるのではなく、相手のことを思いやり、気づかいながら耳を傾けます。「どうしたの？どんなことでも聴くよ」という心構えが大事な基本です。この深い思いやりの気持ちが信頼関係の雰囲気を作り出し、相手の本当の声が聴けます。

よりよく聴くために…「反復」・「待つ」・「沈黙」

こちらが話題をどんどん変えて質問ばかりを投げかけると、相手は心理的・精神的に追い詰められます。

会話を深め広げるための技術に「反復」があります。相手の言葉を、その通りにこちらが言い、そして「待つ」。これで相手は話しやすくなります。

待っても相手が話をしてくれない「沈黙」の時があります。人は大事な話をするときには、沈黙してエネルギーをためているのです。そのときは待つことです。沈黙は怖くはないのです。それでも相手が沈黙しているときは、「今どんなことを考えておられましたか？」と聴きます。あるいは、二人でしばらく外の音を聞いてから、「どんなことを思い出しましたか？」と聴いてもいいのです。それをきっかけに何かを話すかもしれません。

人は聴いてほしいのです。ちゃんと対応してくれたなら、どんどん話したくなります。

傾聴は「相手が主」が基本です。相手を気づかうことが大事です。傾聴が友愛活動のお手伝い、あるいはヒントになればうれしく存じます。

活動アピール

私たち女性会員は、「男女共同参画のクラブづくり」を推進するため、
次のことをめざし活動します。

め
ざ
し
ま
す
！

- 一歩すすんでクラブの役割を担います.....(男女共同参画)
- 楽しく会話のはずむ活動で会員加入に努めます..(会員加入促進)
- 高齢消費者被害の撲滅運動に取り組みます.....(地域の安心)
- 援助を要する高齢者に手をさしのべます.....(地域支え合い)
- 次世代に高齢者のまごころを伝えます.....(世代交流)

ふるさと

(故郷)

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一

うさぎ追いし 彼の山
こぶな釣りし 彼の川
夢は今もめぐりて
忘れがたき 故郷

ついかにいます 父母
雨に風につけ 友がき
思いに風につけ 故郷

いころざしを 果たして
山はあおき 故郷
水は清き 故郷

「Memo」

敦賀港だから伝えられる 「命」と「平和」がある

敦賀港は、明治から昭和初期にかけて、ヨーロッパとの交通の拠点としての役割を担い、1920年代にポーランド孤児、1940年代に「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。

当館では、数々の苦難を乗り越えて敦賀に降り立ったポーランド孤児とユダヤ難民の史実を中心に、当時の敦賀市民の証言やエピソードのほか、今も続く関係者との心温まる交流を紹介し、命の大切さと平和の尊さを発信しています。

ポーランド孤児



敦賀の松原での孤児たち

ユダヤ難民



上陸を待つユダヤ難民たち
〔朝日新聞記事 1941(昭和16)年6月6日より〕

開館時間 | 9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 | 水曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始

入場料	大人	小学生以下
一般	500円	300円
団体(20名以上)	400円	240円

*4歳未満は無料 *障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名まで無料

団体見学 | 20名以上の団体は事前予約が必要です。

*詳しくはお問い合わせください。

ACCESS

■ バス

JR敦賀駅3番のりば ぐるっと敦賀周遊バス(観光ルート)「金ヶ崎緑地」下車

JR敦賀駅4番のりば コミュニティバス 松原線「金ヶ崎緑地」下車

■ タクシー JR敦賀駅から約10分

■ レンタサイクル

自転車の貸出・返却サービス「つるがシェアサイクル」をご利用いただけます。

■ 自家用車

北陸自動車道 敦賀インターチェンジから約10分
(金ヶ崎緑地駐車場:普通車128台、大型バス5台)

MAP



人道の港 敦賀ムゼウム

〒914-0072 福井県敦賀市金ヶ崎町23-1
TEL: 0770-37-1035 / FAX: 0770-37-1036
Mail: jindou@ton21.ne.jp
<https://tsuruga-museum.jp>



ムゼウムはポーランド語で資料館を意味します

2021.11

Port of Humanity Tsuruga Museum

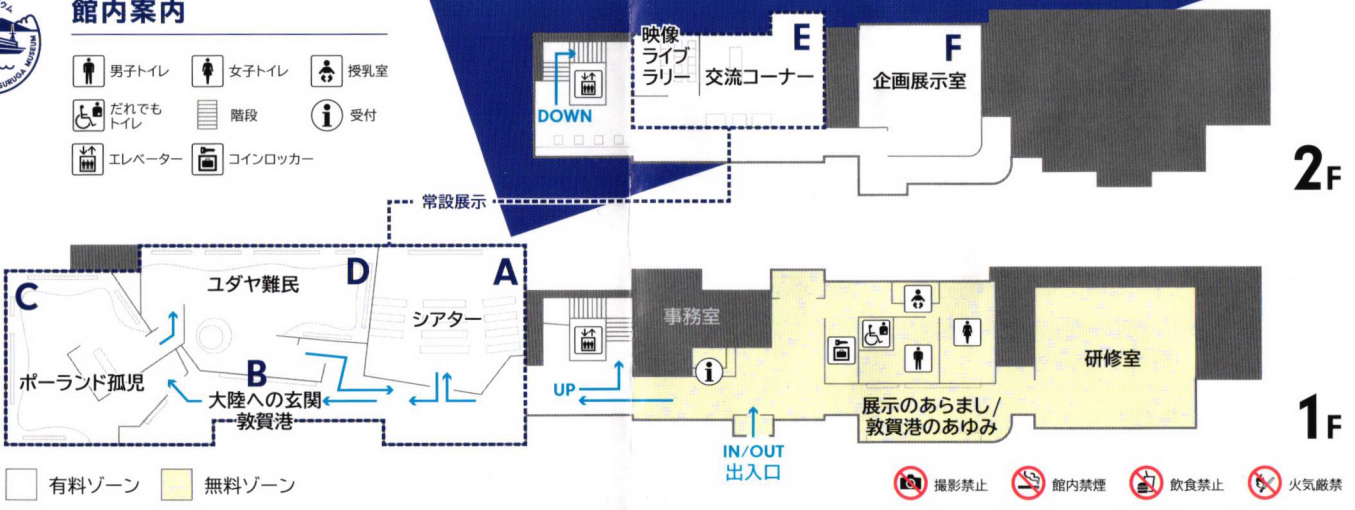
人道の港 敦賀ムゼウム





館内案内

- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 授乳室
- だれでもトイレ
- 階段
- 受付
- エレベーター
- コインロッカー



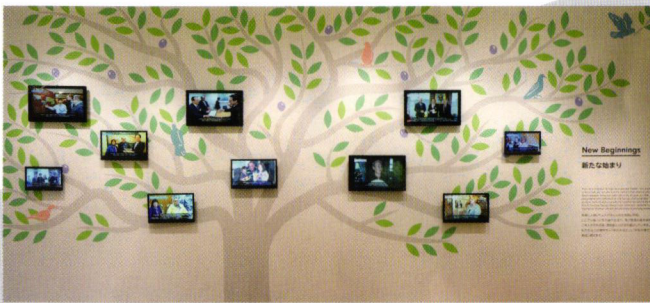
展示のあらし/敦賀港のあゆみ
古代から現代までの敦賀港のあゆみを時代ごとに紹介。



A | シアター
なぜポーランド孤児とユダヤ難民が敦賀港に上陸したのか、「人道の港敦賀」にまつわるエピソードを映像にて紹介。



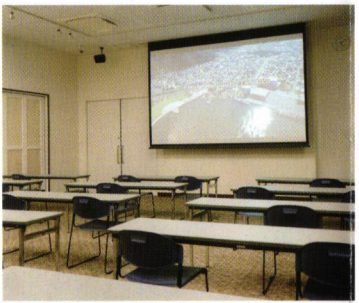
B | 大陸への玄関 敦賀港
孤児と難民が上陸する舞台となった敦賀港の発展のあゆみを写真や図で紹介。



E | 交流コーナー
敦賀に上陸した人々のその後の生活のほか、再び敦賀の地を訪れたご本人やご家族、関係者との交流を映像などで紹介。来館メッセージも記入できます。



F | 企画展示室
所蔵史料や人道の港に関する期間限定の企画展などを開催。



研修室
大型スクリーンを備えた研修室。大人数での学習、イベントなどに利用できます。



C | ポーランド孤児
シベリアから救出され、敦賀に上陸したポーランド孤児の史実について紹介。孤児が残した日記などの史料のほか、来日100周年を記念して制作された大型の陶板レリーフも展示しています。



D | ユダヤ難民
ヨーロッパを脱出し、敦賀を経由して第三国に渡って行ったユダヤ難民の史実について紹介。敦賀上陸当時の詳しい状況に関する貴重な市民証言のほか、ピザのレプリカ、難民が残した時計などを展示しています。